



(1) ウェルビーイング先端研究センター

現在、ウェルビーイングの推進に取り組む組織が多く設立されているが、その大半が健康や生きがいなど個人のウェルビーイングにのみ着目している。個人のウェルビーイングの実現には、それを支える環境や地域などのウェルビーイングを高めることが必要であるため、本センターでは社会やグローバルなウェルビーイングに着目。医学、心理学や健康医学を専門とする研究者と、経済環境や自然環境の研究者が連携し異分野共創研究に取り組んでいるのが特徴である。健康領域研究部門、発達領域研究部門、環境領域研究部門の3部門を擁し、国際的・学際的な研究ネットワークを広げている。

(2) 数理・データサイエンス・AI教育

全学部の1年生を対象にしている「データサイエンス基礎学」では、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と言われる数理・データサイエンス・AIの基礎教育を提供。「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」の二つが用意されており、リテラシーレベルは、今後のデジタル社会に必要な知識を身につけ、応用基礎レベルは、数理・データサイエンス・AIを自らの専門分野に応用するための基礎力が習得できるよう設計されている。どちらのレベルも修了者にはオープンバッジが授与される。オープンバッジは、世界的な技術規格に沿って発行されるデジタル証明である。

(3) 神戸大学ファンド

神戸大学は100%子会社「㈱神戸大学イノベーション (KUI)」を設置。そのKUIの子会社として㈱神戸大学キャピタルが発足。同社は、今年1月31日、国立大学としては初めての民間資金のみを活用した神戸大学ファンドを設立した。大手銀行や地銀など金融機関が出資、20億円のファンドでスタート。神戸大学発のシーズを中心に支援していくが、他大学発あるいは研究機関発のシーズであっても地方創生、地域活性化に資するベンチャーであれば投資を行う。大学を育てた地元神戸、兵庫を中心に、日本を活性化させる起爆剤となるような投資活動を行う。

(4) 『志』特別選抜

グローバル社会の課題解決に挑戦する高い志を持つ学生を見出すため、大学入学共通テストを課さず、高大接続卓越グローバル人材育成センターによる第1次選抜、各学部における最終選抜を通して多面的・総合的に判断する。
https://www.edu.kobe-u.ac.jp/admc-info/special.html



医学部附属病院国際がん医療・研究センター (ICCRC)



多くの医療機関や研究拠点が集まる神戸医療産業都市内にあり、この中で手術・内視鏡治療を核に、次世代医療、新規医療機器の研究・開発を医工連携の基に進めています。

神戸大学は、わが国を代表する研究大学としても注目されています。それぞれの領域が優れた特色と強みを持ち、お互いに密な連携をして、新規性の高い独創的、学際的な教育・研究を行ってきており、国際的にも高い評価を得ているのです。神戸ポータルイランドの神戸医療産業都市地区では、統合研究拠点、神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター、国際がん医療・研究センター、バイオリソースセンター、統合型医療機器研究開発・創出拠

点、神戸大学発のベンチャー企業などの研究開発拠点が集積し、「デジタルバイオ&ライフサイエンス・リサーチパーク (DBLR)」として、神戸大学の新しい科学技術革新基盤を形成しています。国際がん医療・研究センターでは、藤澤学長が医学研究科長(腎泌尿器科教授) 当時執刀医として国産初の手術支援ロボット「hinotori」を使った1例目の手術を成功させるなど医工連携に注力しており、わが国が喫緊の課題とする国産医療機器開発に取り組んでいます。統合研究拠点ではスーパーコンピュータ「富岳」と連携し、コロナウイルスの飛沫エアロゾル拡散モデルに関する最先端の研究を推進しています。

また、持続可能な社会の実現のために環境問題の解決への取り組みが急務であり、日本で唯一の膜工学の総合的研究開発拠点である「先端膜工学研究センター」では、カーボンニュートラルの実現を可能にする機能性CO₂分離膜や、水資源の有効利用に必要な高機能水処理膜の開発を行っています。

神戸大学は昨年、創立120周年を迎えたのを機に、全学的な組織「神戸大学校友会」を設立、「One Kobe Family」として、神戸大学の在校生、教職員、卒業生、保護者などのステークホルダーが、交流し結束を高めることを目指しています。知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点の実現に向け、オール

「異分野共創研究教育グローバル拠点」として「世界水準の研究総合大学を目指し現代と未来社会の課題を解決する人材を育成」



ふじさわまさと 藤澤正人学長
1984年神戸大学医学部卒業。89年同大学大学院医学研究科博士課程修了。神戸大学大学院医学研究科教授、同大学医学部附属病院院長などを経て2021年より現職。日本泌尿器科学会理事長など歴任。国産の手術支援ロボット「hinotori」の開発に携わり、1例目の手術を執刀、成功させる。

ンの推進体制を強化し、戦略的に展開することを目的に「DX・情報統括本部」が設置されています。DBLRを核に先端研究推進スタートアップ創出を加速

点、神戸大学発のベンチャー企業などの研究開発拠点が集積し、「デジタルバイオ&ライフサイエンス・リサーチパーク (DBLR)」として、神戸大学の新しい科学技術革新基盤を形成しています。国際がん医療・研究センターでは、藤澤学長が医学研究科長(腎泌尿器科教授) 当時執刀医として国産初の手術支援ロボット「hinotori」を使った1例目の手術を成功させるなど医工連携に注力しており、わが国が喫緊の課題とする国産医療機器開発に取り組んでいます。統合研究拠点ではスーパーコンピュータ「富岳」と連携し、コロナウイルスの飛沫エアロゾル拡散モデルに関する最先端の研究を推進しています。

また、ここで特筆されるのが、昨年10月に設立されたウェルビーイング推進本部です。4大学術系列のリソースと経験、ノウハウを生かして、誰もが心豊かで幸せを実感できる社会の実現に貢献すべく設立されたもので、同年11月には、同本部の「研究・社会実装」を担うことを目的としてウェルビーイング先端研究センター⁽¹⁾が発足しました。

神戸大学は、4大学術系列からなる10の学部と15の大学院、研究所や法学と経営学の2つの専門職大学院、さらに医学部附属病院や3つの機構、多くのセンター群から成っています。今年4月には「医学研究科医療創成工学専攻」の第1期生が入学し、医

世界に開かれた国際港湾都市に位置する神戸大学は、「真摯・自由・協同」の学風のもと、「学理と実際の調和」を建学の精神として発展を続け、わが国有数の総合研究大学として昨年創立120周年を迎えました。人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命・医学系の諸分野の強みを発揮して社会の課題解決に貢献するとともに有意な人材を多数輩出してきました。

さらなる進化に向け、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」を長期ビジョンに、「デジタルバイオ&ライフサイエンス・リサーチパーク (DBLR)」構想を推進するなど、従来の学術系列を超えた学際的な新領域の開拓に努め、「世界最高水準の研究教育拠点」の形成を目指しています。

神戸大学

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 学務部入試課 TEL 078-803-5226 https://www.kobe-u.ac.jp/

「異分野共創研究教育グローバル拠点」として世界水準の研究総合大学を目指し現代と未来社会の課題を解決する人材を育成

学理と実際の調和を理念に4つの学術分野の強みを発揮

国際戦略港・神戸にキャンパスを構える神戸大学は、開放的で国際性に富む文化的・歴史的背景を持ち、進取と自由の精神がみなぎる学府です。前身の神戸高商時代の「真摯・自由・協同」の精神を継承し、「学理と実際の調和」を建学の理念として、さまざまな社会的課題解決に貢献してきました。人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命・医学系という4つの分野における強みを活かして、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを長期ビジョンとしています。

このため、学生・教職員ら構成員一人ひとりが、教育研究・業務に持てる力を最大限に発揮できるようなキャンパスづくりにも力を注いでいます。その象徴が昨年開設したインクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンターで、これまで個別に存在していた各組織を束ね、ジェンダー平等やダイバーシティの推進、障害のある学生の修学支援などに取り組んでいます。

また、ここで特筆されるのが、昨年10月に設立されたウェルビーイング推進本部です。4大学術系列のリソースと経験、ノウハウを生かして、誰もが心豊かで幸せを実感できる社会の実現に貢献すべく設立されたもので、同年11月には、同本部の「研究・社会実装」を担うことを目的としてウェルビーイング先端研究センター⁽¹⁾が発足しました。

学部和センターが密に連携 データサイエンス教育も充実

神戸大学は、4大学術系列からなる10の学部と15の大学院、研究所や法学と経営学の2つの専門職大学院、さらに医学部附属病院や3つの機構、多くのセンター群から成っています。今年4月には「医学研究科医療創成工学専攻」の第1期生が入学し、医

学と工学が連携する「先端的医療機器・システムを創造する大学院」としてスタートを切りました。こうした学部や大学院、センターが互いに密に連絡を取りながら独創的・学際的な教育・研究を実施しているのが神戸大学の特徴です。

キャンパスは、4地区あり、メインキャンパスの六甲台地区も4カ所に分かれています。藤澤学長は「新型コロナウイルス感染症は、学生の皆さんが『学びたい時に、学びたいことを、学びたい人のもとで学ぶことができる環境』を整える必要性を認識させてくれる契機となりました。メタバースも視野に入れて4つの地区を結ぶ理想的なハイブリッドキャンパスを目指しています」と説明します。神戸大学では専攻分野を深めながら、社会で求められる横断的な知識も習得できるカリキュラムを多数用意しています。例えば、日本酒や阪神・淡路大震災など地域と関係深い科目が数多く開講されているのはじめ、国際協力のための教育プログラム (GCP)、環境問題やSDGsなどと関係の深い持続可能な開発のための教育 (ESD) プログラムなどを整備しています。

また、これからの社会はデジタルやICT (情報通信技術) に対応したスキルの涵養が必要になってきます。そこで、文系・理系に関わらず、すべての学部学生に「数理・データサイエンス・AI教育」を実施しています。「数理・データサイエ